

令和 6 年度
復興推進委員会・第 2 期復興・創生
期間までの復興施策の総括に関する
ワーキンググループにおける
現地視察（宮城県）報告

視察行程等

● 実施日

令和6年6月27日（木）

● 参加者

今村座長、白波瀬構成員及び戸塚構成員並びに奥野委員及び山名委員(計5名)

※ 復興庁及び宮城県庁の職員が随行。

● 訪問先

宮城県気仙沼市及び仙台市

● 行 程

【気仙沼市】

- ① 株式会社阿部長商店
(新ハズオン支援事業関係)

【仙台市】

- ② アクアイグニス仙台
(移転元地の利活用関係)
- ③ 宮城県庁
(宮城県・みやぎ心のケアセンターとの意見交換)



結果概要

① 株式会社阿部長商店（新ハズオン支援事業関係）

<概要>

震災後に整備された水産加工施設の視察後、株式会社阿部長商店から、東日本大震災による被災状況、復興庁によるこれまでの支援の取組（専門家集中派遣事業、新ハズオン支援事業）とその成果（加工のノウハウを専門家から得られたこと、新たな事業を始めるきっかけとなったこと）等についての説明を聴取し、意見交換を実施。

<意見交換での主な発言内容>

- 復興庁の新ハズオン支援事業を活用することなどにより、海外に販路を拡大したり、関係者が協力して新たな取組を行ったりしていることは参考になる。
- これらの取組は、好事例として、課題があればそれと併せて、国内外・後世にも伝えていきたい。



阿部長商店での視察



阿部長商店での意見交換

② アクアイグニス仙台（移転元地の利活用関係）

<概要>

震災後に整備された商業施設の視察を行うとともに、仙台市から、仙台市東部沿岸部における集団移転跡地利活用事業及び海岸公園（藤塚地区）基本計画について、アクアイグニス仙台から、施設の整備経緯、概要等についての説明を聴取し、意見交換を実施。

<意見交換での主な事項>

- 沿岸部における土地利活用の今後の見通しについて
- 当該商業施設における取組や事業の現状について



アクアイグニス仙台での視察

③ 宮城県・みやぎ心のケアセンターとの意見交換

<概要>

宮城県及びみやぎ心のケアセンターから、以下の内容についての説明を聴取した後、それぞれとの意見交換を実施

- 宮城県：「第2期復興・創生期間期」終了後の宮城県における復興の課題
- みやぎ心のケアセンター（※）：同センターの概要、設置経緯、体制、活動の基本方針、活動実績等

<意見交換における主な発言内容>

【宮城県との意見交換】

- 復興のステージに応じて、特に一般施策への移行に向けてきめ細かな対応を検討していきたい。
- 移転元地の活用については、各地域共通での工夫が必要。
- 震災伝承を維持・発展させるための方策を皆さんと考えていきたい。
- 支援をしっかりと生かせる自治体において復興に取り組んだ成果をモデルとして共有することに加え、期待した効果が得られなかった事例も共有することが重要ではないか。
- 被災地においても少子高齢化といった全国共通の課題があるため、心のケアを含めて一般施策への移行や人口流入に向けた取組を行っていくことが重要。
- 震災がきっかけで新たなつながりが創造されたことを踏まえ、被災地とそれ以外の地域の人々がつながるための支援が重要ではないか。

【みやぎ心のケアセンターとの意見交換】

- 災害に係る相談件数には、ほかの災害においても類似の傾向（発災直後は一時的に非常に相談件数が増加するが、その後一定の値となり、そこから徐々に減少しつつ長期的な対応が必要となること）があることから、長期的な対応を見据えて人材育成等を行いつつ、一般施策を活用していくことが重要。



宮城県庁での意見交換

※ みやぎ心のケアセンター：被災地における地域精神保健福祉の向上を基本理念とし、東日本大震災により心理的影響を受けた県内在住者がコミュニティの中で安心して生活できるよう、地域の実情に合わせた支援事業を実施。平成23年12月に開設。